

2012 年労働災害・疾病統計調査結果

1. 調査目的

ゴム連合加盟単組企業の 2012 年 1 月から 12 月までの労働災害・疾病の発生状況を把握し傾向を分析することによって、安全衛生活動の効果の確認や、今後の労働災害撲滅・疾病防止に向けた安全衛生活動の方向性を検討していくための基礎資料とする。

2. 調査内容

- (1) 労働災害統計
- (2) 疾病休業状況統計
- (3) 疾病別休業件数
- (4) 疾病別休業件数の年齢別内訳
- (5) 休業災害報告書 (2012 年 1~12 月分)

3. 調査結果概要

(1) 2012 年 労働災害状況統計

- ・不休災害については 187 件 (前年比▲29 件) と前年に対して減少したが、休業災害は 76 件 (同+11 件) と前年対比で大きく増加した。休業災害の内訳を見ると、死亡災害が 1 件、障害が残る怪我の程度が大きい災害が 6 件発生している。
- ・度数率と強度率は昨年対比でともに増加しており、近年では高い数値となっている。
[度数率 : 0.66(前年比+0.11)、強度率 : 0.21(同+0.08)]
- ・労働損失日数は 24,985 日 (前年比+9,543 日) となり、前年対比で大幅に増加した。

(2) 2012 年 休業災害発生状況集計

- ・雇用形態別の発生比率は、正規従業員が 79%、非正規従業員が 21%と前年同様である。(ゴム産業の正規/非正規従業員割合とほぼ同じ。)
- ・勤続年数別の発生割合は、勤続 5 年未満の被災が 24%を占めており最も高い。勤続 5~10 年は 21%を占めている。勤続 5 年未満と勤続 5~10 年を合せると、全体の約半分を占める。
- ・被災職場の経験年数別の発生割合は、3 年未満が 47%となり、全体の約半分を占める。
- ・作業形態別の発生割合で見ると、非定常作業 (異常処理+修理調整) によるものが 38%を占めている。
- ・災害型別では、挟まれ・巻き込まれが 43%、転落・転倒が 28%を占めている。挟まれ・巻き込まれと転落・転倒で、全体の約 7 割を占める。

(3) 疾病休業状況統計

- ・疾病休業件数の発生割合では、精神疾患が23%で第1位となり、2008年から5年連続で最も高い割合となっている。腰痛などの筋骨格系の疾病も17%と高い割合を占めている。

<2012年労働災害発生状況統計結果>

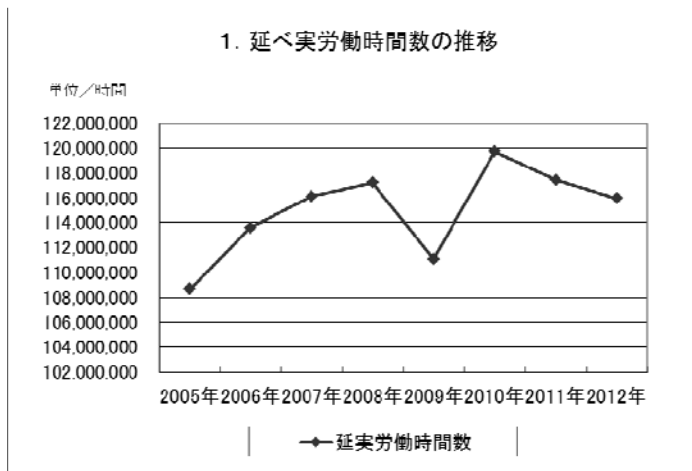
年度	延実労働時間数	死亡	永全	一部	一時労働不能			合計	労働損失日	度数率	強度率	不休
					8日以上	4-7日	1-3日					
2012年合計	115,942,373	1	1	4	46	3	21	76	24,985	0.66	0.22	187
2011年合計	117,429,457	1	0	8	33	6	17	65	15,442	0.55	0.13	216
2010年合計	119,712,975	0	0	6	34	9	16	65	4,292	0.54	0.04	225
2009年合計	111,084,909	0	0	4	25	7	6	42	5,832	0.38	0.05	201
2008年合計	117,221,280	3	0	2	51	13	13	82	25,556	0.70	0.22	245
2007年合計	116,094,624	0	0	5	42	6	13	66	10,788	0.57	0.09	285
2006年合計	113,599,581	1	3	2	44	7	11	68	21,931	0.60	0.19	291
2005年合計	108,664,427	2	0	6	55	6	9	78	19,775	0.72	0.18	263
2004年合計	78,193,497	0	0	3	35	9	12	59	2,855	0.75	0.04	230
2003年合計	76,436,851	0	0	13	36	6	7	62	8,170	0.81	0.11	262
2002年合計	78,309,863	0	1	6	43	7	8	65	13,052	0.83	0.17	212
2001年合計	79,411,836	0	1	9	54	4	5	73	18,636	0.92	0.23	266
2000年合計	82,680,063	1	0	8	51	10	12	82	17,441	0.99	0.21	323
1999年合計	88,672,663	0	1	5	54	1	3	64	8,463	0.72	0.10	276
1998年合計	91,735,346	1	0	10	49	6	12	78	12,982	0.85	0.14	314
1997年合計	110,172,289	4	0	9	70	8	7	98	46,056	0.89	0.42	359

<2012年 労働災害状況統計>

1. 延べ労働時間数の推移

ゴム連合加盟単組企業の2012年の総労働時間数は、前年の117,429,457時間から1,891,762時間減少し115,537,695時間となった。

総労働時間数は減少傾向にあるが、企業別では減少した企業と増加した企業がほぼ半数となり、業種や企業環境によって総労働時間数の増減が分かれる結果となった。(集計数が異なるため参考値。)

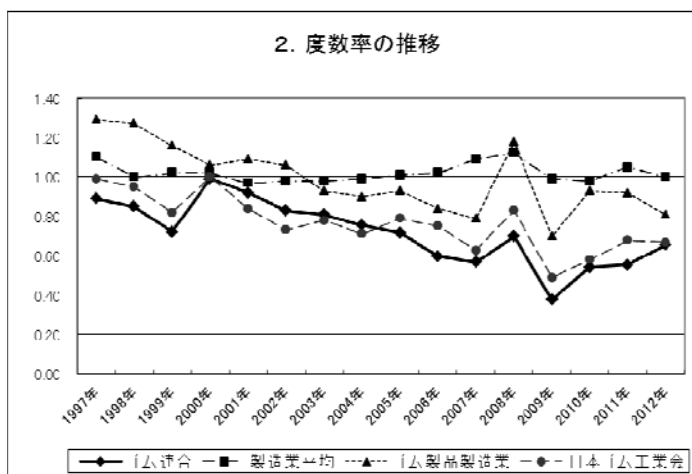


2. 度数率の推移

労働時間100万時間のあたりの労働災害(死亡+障害+休業)発生率を表す度数率については、前年の0.55から増加し、0.66となった。

休業災害発生件数が2011年の65件から76件と11件増加したこと、総労働時間数が減少していることが度数率上昇に繋がった。また、中小企業の休業災害発生も度数率上昇の要因となっている。

<度数率: (死亡+障害+休業災害件数)÷延労働時間数×1,000,000時間>

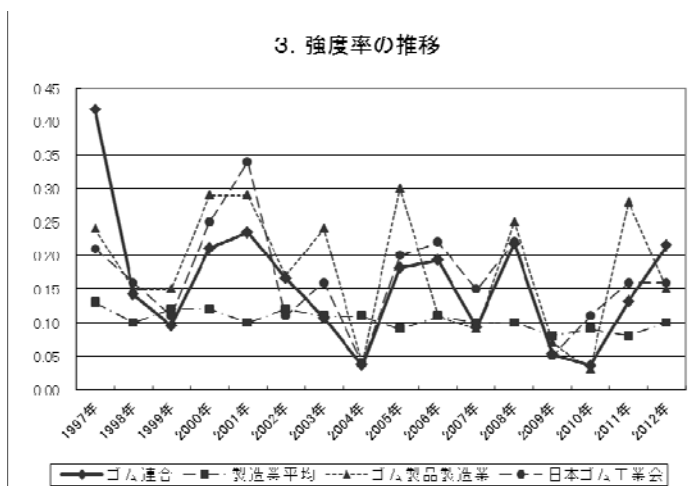


3. 強度率の推移

労働災害の程度(強さ)を表す強度率については、前年の0.13から更に上昇し、0.22という高い数値となった。

これは死亡災害が1件、障害が残るような怪我の程度が大きい災害が6件発生したことが大きな要因である。

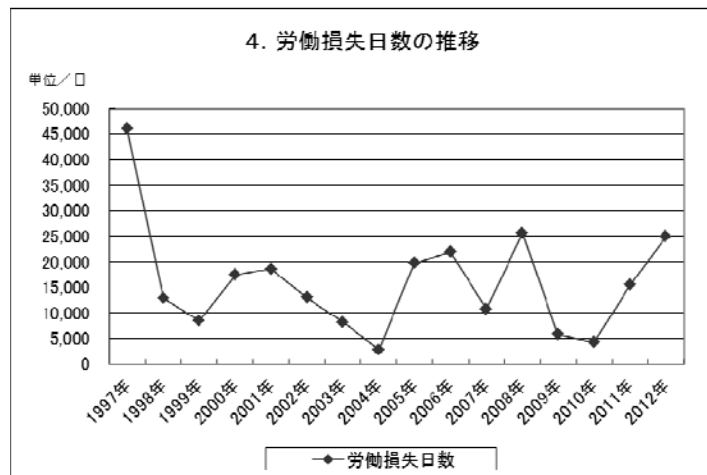
<強度率: 労働損失日数÷延労働時間数×1,000>



4. 労働損失日数の推移

労働災害の影響により損失した労働日数の推移は、前年の15,442日から9,543日も増加し24,985日となった。

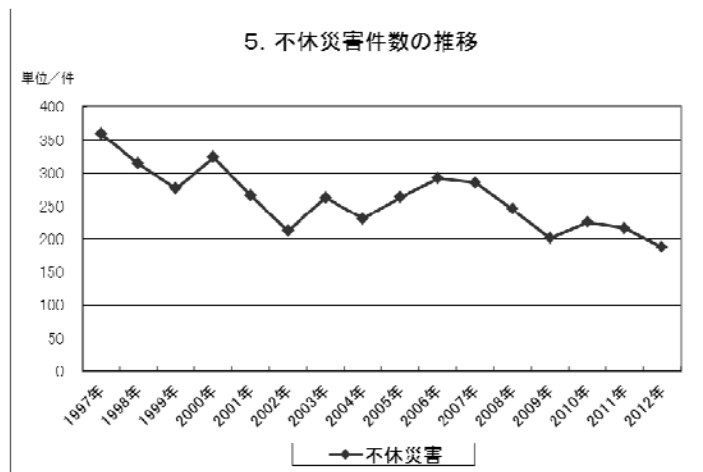
障害等級1級(労働損失日数7,500日)の労働災害が2件発生していることや、障害が残るような怪我の程度が大きい災害の発生によって、労働損失日数は大幅に上昇した。



5. 不働災害件数の推移

不働災害件数は前年より29件減少し、187件と1997年以降初めて200件を下回った。

しかし、不働災害であっても指の欠損や骨折など、怪我の程度が大きい災害が発生している。

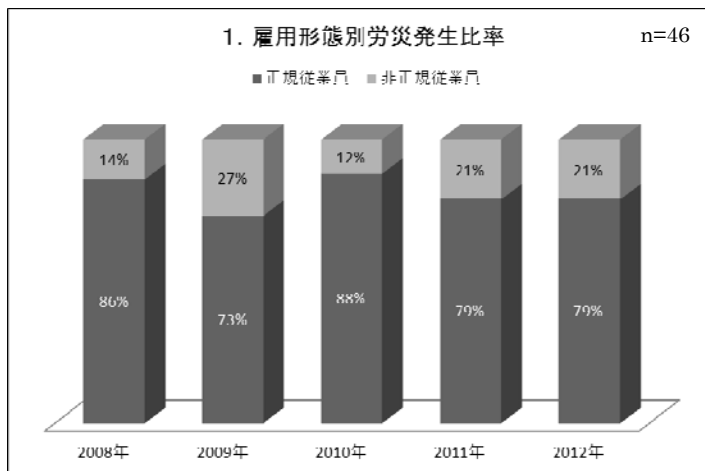


<2012年 休業災害発生状況集計>

1. 雇用形態別労災発生比率

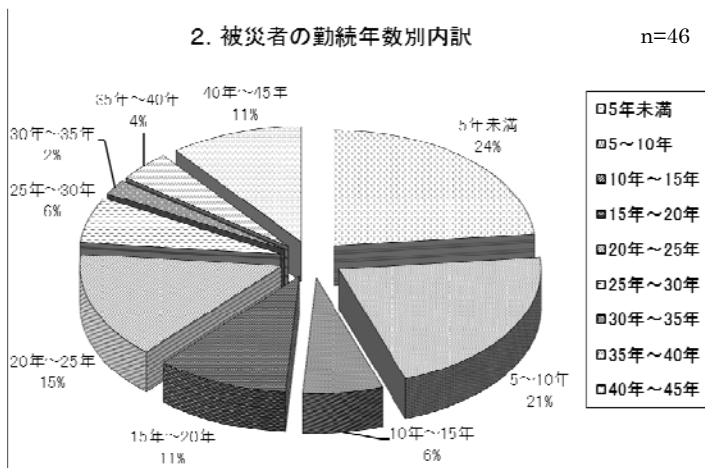
被災した従業員の雇用形態比率は、正規従業員が79%、非正規従業員が21%と前年同様の割合となっており、正規従業員の被災が圧倒的に多い。

業種によっても異なるが、ゴム産業の正規・非正規労働者の比率とほぼ同様の結果である。



2. 被災者の勤続年数別内訳

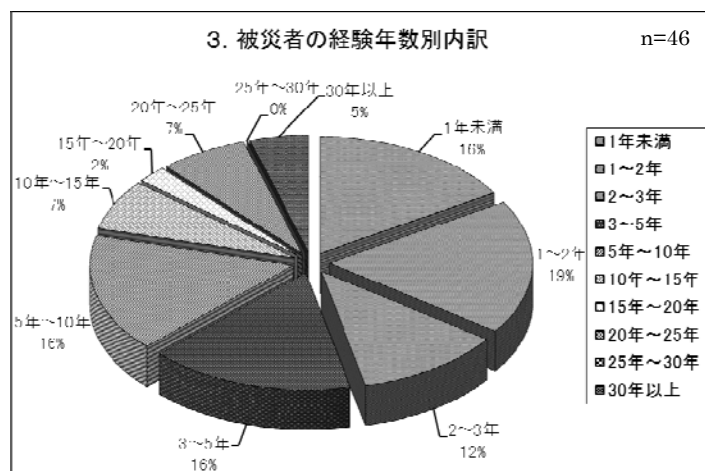
被災者の勤続年数別の内訳では、勤続5年未満の新人従業員の被災が24%と最も多く、5～10年の従業員が21%、20～25年のベテラン従業員が15%と高い割合となっている。



3. 被災者の経験年数別内訳

被災者の経験年数別の内訳では、1年未満から2～3年までの3区分合計で47%と、職務経験3年未満の人の被災が最も多い。

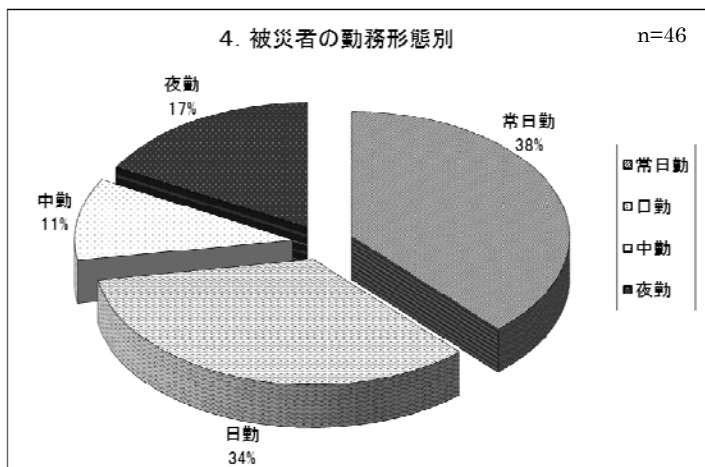
新人従業員の被災に加えて、勤続年数は長いが経験年数が短い従業員の被災が発生したことが要因である。



4. 被災者の勤務形態別

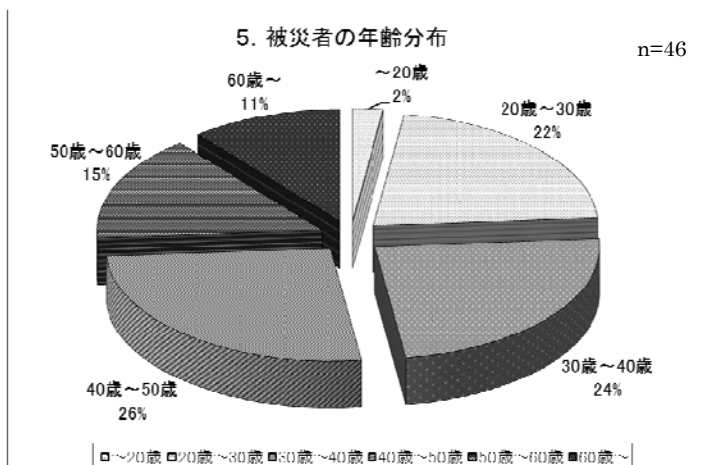
被災した人の勤務形態別では、常日勤が38%、日勤が34%、中勤11%、夜勤17%という結果になった。

常日勤者および日勤者の人数比率が高いことに比例している。(2012年労働時間調査より)



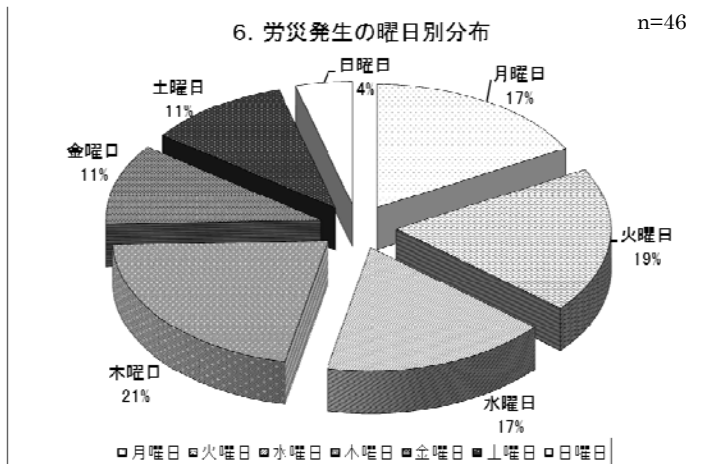
5. 被災者の年齢分布（全体）

被災した人の年齢分布では、40歳～50歳の割合が26%と最も高く、30～40歳代も24%と高い割合を示している。



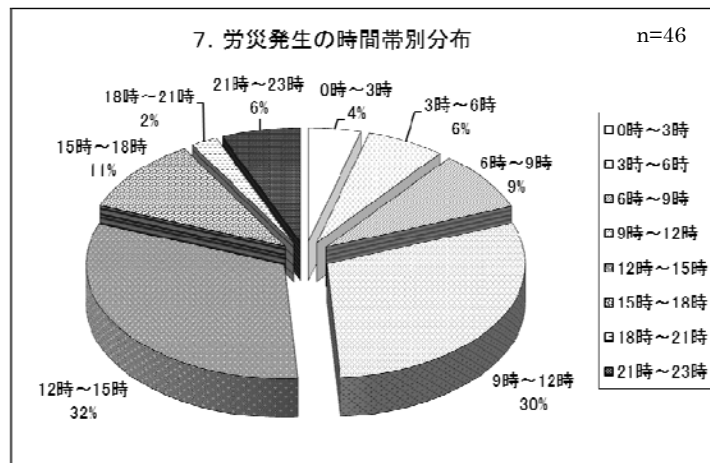
6. 労災発生の曜日別分布

労災が発生した曜日の分布では、土曜日、日曜日よりも平日での被災が多くなっている。



7. 労災発生の時間帯別分布

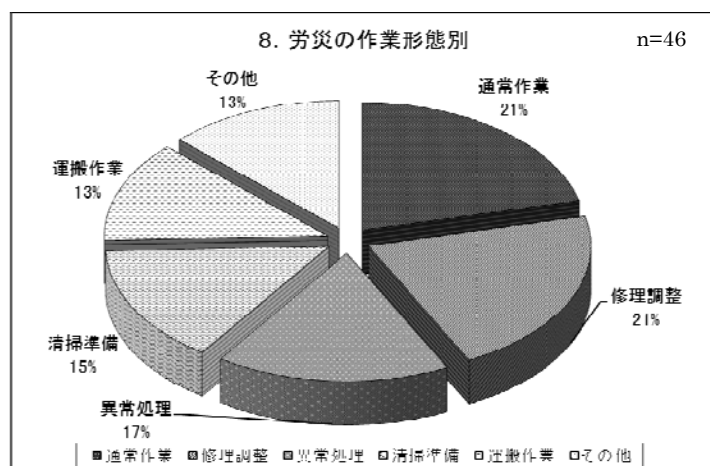
労災が発生したときの時間帯の分布では、12時～15時が32%、9時～12時が30%、日中での被災が多い。



8. 労災の作業形態別

被災した際の作業形態別では、通常作業が21%、異常処理が17%、修理調整が21%となった。何らかのトラブルが発生したことによって、その対処を行う際に被災するケースが多く見られた。

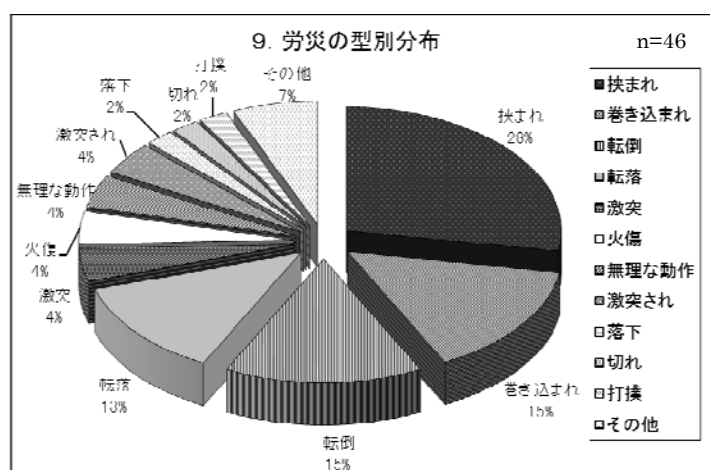
また、生産活動外の災害も発生している。



9. 労災の型別分布

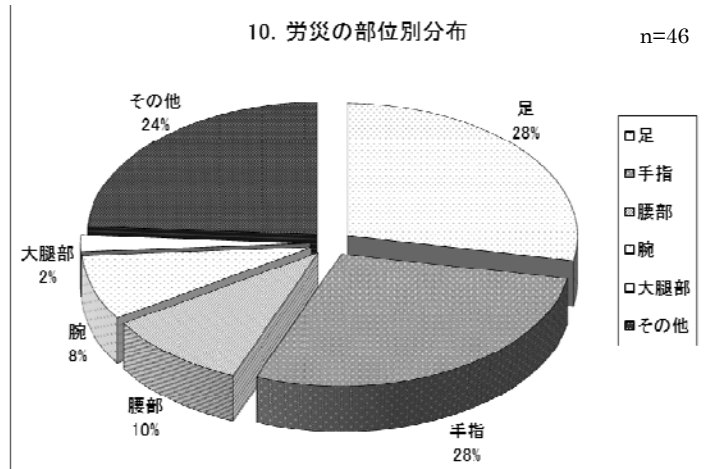
労災の型別分布では、製造業やゴム産業で多く発生する「挟まれ・巻き込まれ」による災害が43%と最も高い割合となっている。

また「転倒・転落」による災害が28%と、前年より2倍に増加した。



10. 労災の部位別分布

被災した際の部位別分布では、「足」が30%と最も多い。足を挟まれる被災に加えて、転倒・転落の増加が主な要因となっている。



<2012年疾病休業統計結果>

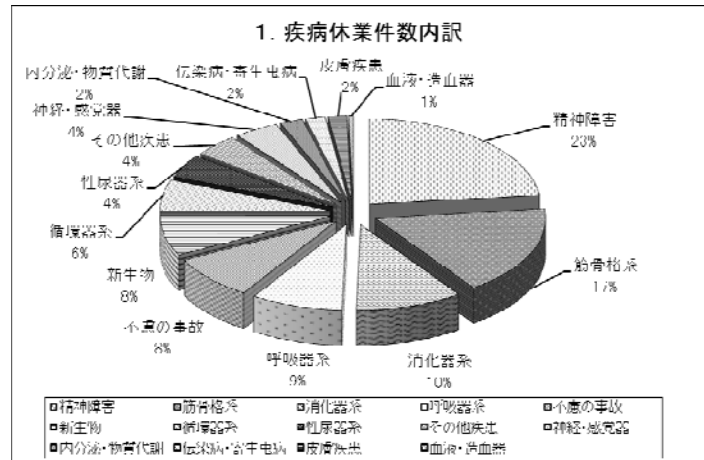
年度	在籍従業員数		延べ所定 労働日数	延べ実 労働時間	疾病休業件数		疾病 休業日数	休業 日数率	休業 件数 千人率	休業 度数率	休業 強度率	
	男子	女子			うち旧患							
2012年合計	56,022	48,803	7,005	13,696,972	111,901,061	1,862	256	83,219	0.61	33.24	16.64	0.74
2011年合計	57,660	50,019	7,341	14,386,345	113,478,652	1,844	241	83,362	0.58	31.98	16.25	0.73
2010年合計	58,950	50,097	7,390	14,083,071	117,783,092	1,849	219	82,873	0.59	31.37	15.70	0.70
2009年合計	58,939	51,702	6,960	14,003,028	110,244,520	1,709	395	76,776	0.55	29.00	15.50	0.70
2008年合計	58,101	48,841	6,540	14,239,057	115,905,512	2,042	365	83,428	0.59	35.15	17.62	0.72
2007年合計	58,008	50,927	7,081	14,037,188	114,871,002	2,049	348	82,240	0.59	35.32	17.84	0.72
2006年合計	57,174	49,472	7,702	14,060,592	113,201,683	1,998	336	74,049	0.53	34.95	17.65	0.65
2005年合計	54,761	47,764	6,997	13,090,634	109,468,197	2,052	307	72,050	0.55	37.47	18.75	0.66
2004年合計	36,288	30,518	5,756	8,830,172	75,608,044	1,580	102	47,489	0.54	43.54	20.90	0.63
2003年合計	37,303	31,428	5,866	9,040,334	75,106,952				0.49	36.19	17.97	0.59

<2012年 疾病休業状況統計>

1. 疾病休業件数内訳

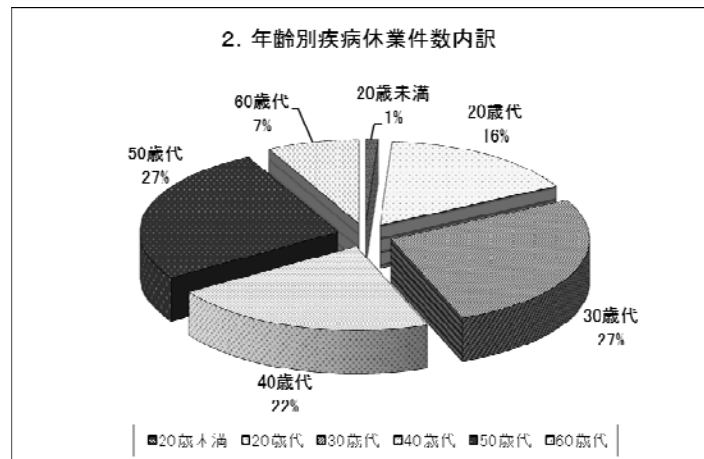
精神疾患については、それを理由とする休業者が増えてきており、精神疾患が疾病休業件数において2008年に第1位となっている。2012年においても、精神疾患が疾病休業件数の割合において23%(431件、前年比+1件)となり、2008年から5年連続で最も高い割合となっている。

また、腰痛など筋骨格系の疾病も17%と高い割合となっている。



2. 年齢別疾病休業件数内訳

疾病休業者の年齢別内訳を見ると、20歳代18%、30歳代27%、40歳代22%、50歳代27%と、年代を問わず休業者が発生している。



3. 疾病別年齢内訳

各疾病について年齢別に分類すると、新生物(ガン)や循環器系、泌尿器系の疾病において50歳代の割合が高い。

一方、伝染病・寄生虫病や精神障害、呼吸器系などの疾病では30歳代での割合が高くなっており、疾病の種類によって休業者の発生の割合が高い年代が別れている。

